

名古屋地学会第 306 回例会報告

豊橋市自然史博物館 松岡敬二

日時：2014 年 10 月 18 日 (土) 10 時～16 時

集合場所：田原市赤羽根町大西 32-4 道の駅あかばねロコステーション駐車場（午前 10 時）

案内者：松岡敬二（豊橋市自然史博物館）・藤城信幸（田原市立和地小学校）

参加人数：14 名

巡検コース：①土田海岸→②堀切海岸→③骨山→④福江層→⑤伊良湖岬→⑥小中山の湧水→

⑦村松の鏡肌。 [お食事処みなみで昼食（大アサリ丼）]

巡検内容：

①土田海岸 土田海岸は、テトラポットと巨岩が並んでいる。テトラポットの一部は、侵食され大きく磨耗している（写真 1）。その原因は、波と共に打ちつけられる礫の衝撃によるものである。海浜礫は一般には扁平な礫が多いが、この周辺の礫は、球形率の高い円礫が多く混じっている。この円礫の存在は、田原市立和地小学校の藤城信幸氏により最初に確認されたものである。円礫形成については別途報告することにする。

また、岸近くにあるチャート巨岩群は、「津波石」でないかと考えているが、根拠となる証拠については調査中である。

②堀切海岸 堀切集落は、プレート型の地震が起こるたびに海浜を乗り越える津波被害を受けてきた。1854 年 1 月 15 日の安政地震に伴う津波被害は甚大で、津波後に住民の手により土と貝殻を混ぜて造られた人為的な堤防が「貝ぼた」である。田原市堀切（伊良湖フラワーパーク跡）から海側に入った場所で、「貝ぼた」の現状を見学した。

③骨山 伊良湖ビューホテルのある場所から日出の石門側は、ごつごつしたチャートが露出する断崖となっており骨山の地名を彷彿とさせる。国道 42 号線から下った平坦部分（日出砲台設置推定場所）に島崎藤村の「椰子の実」の石碑が建つ。そこから、西方向に下った平坦部分（伊良湖防備衛所跡）からは伊良湖水道や神島が遠望できた。

日出砲台設置推定場所から下ったチャートの巨岩からは、日出の石門（沖の石門、陸の石門）、東側に伸びている海岸線には「貝ぼた」のある堀切海岸と、遠方に大山が望めた（写真 2）。

④福江層 福江層は、田原市福江付近の段丘崖に露出する礫層が模式とされている。現在、福江層は下位の赤羽根泥部層と上位の若見砂礫部層に区分されている。今回見学した場所は、従来の模式地付近で、若見砂礫部層に相当する（写真 3）。

⑤伊良湖岬 伊良湖港側から伊良湖灯台を経て恋路ヶ浜手前まで歩く。その間、三波川帯（御荷鉢ユニット）の岩石とそれを不整合に覆う福江層等や風衝樹形を観察した。また、恋路ヶ浜の延長上に見える伊良湖ビューホテルと宮山の鞍部は、秩父帯と三波川帯の境界であることを説明した。

⑥小中山の湧水 西ノ浜は、沿岸流によって形成された礫州堆積物からなる浜堤である。小中山町の天白川右岸はこの浜堤と、谷を埋める後背湿地及び谷底低地堆積物からなっている。沖積層からなる浜堤には、3 層の浅層帯水層からなると報告されている。浜堤の縁からの湧き水は、小川となり天白川に合流している（写真 4）。

⑦ 村松の鏡肌 渥美半島の秩父帯には、愛知県の天然記念物となっている赤羽根町西山の「光岩」、田原市史跡・名勝となっている伊川津町の「鸚鵡石」など大小多くの鏡肌が知られている。その中でも比較的大きな鏡肌に村松町の鏡肌がある（写真5）。30年前に比べ断層面の輝きは低下したが、規模の大きさでは保全してもらいたい鏡肌である。



写真1. 磨耗の進むテトラポットと大ズメ岩。
（奥右の巨岩）



写真2. 骨山側からみた堀切海岸.



写真3. 福江層.



写真4. 中山湧水.



写真5. 村松の鏡肌.